

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號三第

卷六十三第

行發日一月三年八和昭

論叢

法人所得の累進課税 法學博士 神戸 正雄
 純生産力について 文學博士 高田 保馬
 ケトレー直後の英佛統計學 法學博士 財部 靜治

時論

地方財政調整交付金を批判す 經濟學博士 汐見 三郎

研究

農民離村ミゴルツ法則 經濟學士 八木芳之助
 均一値段營業に就て 經濟學士 大塚 一朗
 中央銀行協力の發展に就いて 經濟學士 松岡 孝兒

說苑

福岡藩育子策再論 經濟學博士 本庄榮治郎
 漁業組合の經營 經濟學士 蜷川 虎三
 獨逸及佛蘭西の所得税 經濟學士 柏井 象雄

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁轉載)

均一値段營業に就て

大塚 一朗

緒 言

均一値段營業 (Einheitspreisgeschäft) は、前世紀の末に、始めて米國に生れた所の、小賣營業の一特殊形態である。而して、それは其の後に、同國で次第に順調に發達して來たが、大戰開始以後に至りて特に急激なる飛躍期に入り、専門的に此の種の營業を營む企業の中にて、其の代表的なるものは、米國五大企業の列に數へられることになつた。均一値段營業の目覺ましき發達は、ひとり米國のみにて起れるものではない。數年前にはそれが獨逸、英國及び其の他の歐洲諸國にも移植されたが、ここでも亦此の新形態の營業は短日月の間に極めて顯著なる躍進的步調を以て發達して來た。かくて、經濟恐慌の猛威もその發達に於ける破竹の勢力に觸るること能はざる觀がある。

この新規な一營業形態が歐、米にて示せる異例なる發達の狀貌は、これを種々なる視角から觀察することが出来る。けれども、今は特に

(一)それが、近年短期間に、歐、米に於て、極めて顯著なる全體的發達を遂げて來たこと、
(二)此の種の營業を専門的に營む企業は、景氣の變動に依つても其の取引の發展(Umsatzentwicklung)乃至は操業度(Beschäftigungsgrad)の上に殆ど影響を蒙ることなくして、一般に甚だ堅實、強靱なる發展狀勢を示せること、の二點に着眼しやうと思ふ。
先づ、これら二つの視角から見たる其の發達の大勢を窺ひ、次いで、其の基礎的條件について考察しやうと思ふのである。

一、均一値段營業の概念

均一値段營業(Einheitspreisgeschäft)の概念を、最も廣く解するときには何等かの役務(Service, Dienst)を、或は又これと共に併せて何等かの有形財を結合的に均一的値段を以て供給する所の營業が、亦總てこれに含まれることになる。従つて、飲食店、旅館、映畫演劇場、交通業等を營む營業の大なる部分が又、此の中に含まれて來る。しかし、ここに均一値段營業といふ所のものはかかる廣義のものではない。即ち、それは所謂、固有の小賣營業に關するものにして、有形的商品を最後の需要者に販賣する營業に限られてゐるのである。此の場合に於てもなほ、均一値段營業は更らに又二つの種類に分かれるのである。

(イ)例へば食料品、臺所用品、服飾品、化粧品、履物類等の如き商品中の何等かの種類のを、

専門的と言はれ得べき程度の限定的範圍内にて販賣する所謂専門店と、

(ロ)必しも、特定範圍の種類に限るのではなく、其の範圍に於て無制限なる種類の商品を販賣する營業との、二種類がこれについて分たれる。本文に均一値段營業といはれるものは此の後者の種類に屬してゐるものであることが其の概念規定上、先づ重要な意味を有する。即ち例へば、米國一流の均一値段企業に屬する Metropolitan Store Inc. にありては現に一萬種類にも達する各種の商品が賣られてゐる。其の取扱ふ所の商品の種類が際限も無く多岐に亙つてゐることは所謂、均一値段營業の本質的要素の第一點を成すことを看過してはならぬ。

此の特殊形態の商品配給營業に於ける本質的標識の第二點は其の販賣商品の單位値段に關係してゐる。詳言すれば、此の種の小賣營業にて販賣される商品の種類は前述の如く無數に岐れてゐるけれども、それらは總て例へば 5 cents, 10 cts, 25 cts, 1 Dollar 或は又 10^{cents}, 25 Pfg, 50 Pfg, 75 Pfg, 100 Pfg (R.M. 1.00) 等の如く夫々の國の貨幣單位に於て甚だ小額なる貨幣額を以て極めて小數の段階に分かれた確定値段の明示の下に賣られてゐるのである。而して、此の營業の祖國たる米國にて最初に最も普通に流布されてゐた定額値段階級は五セント及び十セントであつたから、現今に於ては既に其の値段階級は最初の當時より多少複雑に岐れ、又一般に其の額の程度も少しく高まつて一弗もの値段を附せられた商品が共に販賣されてゐる例も少くないにかかはらず、今尙ほ同國にては 5 & 10 cts chain (五セント、十セント連鎖店) の名稱が社會一般に好

1) M. Umbach, Die Amerikanischen Kettenladenbetriebe (Chain Store System) S. 26.

2) Vgl. Mellerowicz, Allgemeine Betriebswirtschaftslehre, S. 165.

んで、此の種の營業の爲に用ひられてゐる。尤も、其の發達の初期に於て多く取扱はれた商品の性質に基いて起れる所の新奇品連鎖店 (Novelty-Store-Chain)³⁾ といふ名稱も用ひられる。

前記の如く、其の祖國たる米國に於ては均一値段營業の名稱の中に、それが連鎖式 (Chain System) の營業方法なることが表示されてゐるが、これは正に此の種小賣營業形態の本質的標識の第三點を適當に謳ひ現はせるものである。多數の種類の商品を數段階に分れた確定的の均一値段を以て販賣してゐても、其の販賣の場所たる店舗が單に一箇所に止まるが如き場合にはそれは未だ完全に、ここに言ふ所の均一値段營業に當るのではない。同時にそれは場所的に相岐れた、同様の、多數の定住的營業所にて、少くとも、何等かの程度に於ける共通の統制を受けて營まれてゐなければならぬ。一九二九年に於て、米國最大の均一値段企業たる Woolworth は一八二五の分店設備を有し、又 Kresge の營業所は同年に於て約六〇〇に達する⁴⁾。獨逸に於ける四大均一値段企業も一九三〇年に於てはいづれも五〇箇所以上の營業所を有してゐる⁵⁾。尤も、多數の營業所が其の資本所有の點から見て同一の企業に包括されることは必しも要件ではない。ただ商品仕入の實行を共同して行ひ、或は同一の店名にて廣告を行ふ等の如きことの外、其の資本所有の關係に於ては相互に獨立的地位にある營業所にて營まれてゐても同様に、其れが連鎖的關係を結んで營業を營んでゐる點を擡へて、これを均一値段營業と見ることが出来るのである。ただ、從來の實狀からすれば、均一値段營業に於ける多數の分店は夫々資本同根の一企業に包括されてゐる

3) Umbach. a. a. O. S. 25.

4) Mutz, Das Einheitspreis-geschäft, S. 37.

5) F. f. H. Mitteilungen, 1. Jahrgang. No. 3. S. 10.

のが大勢であつた。然し、將來には、單に營業上の技術的活動に於て共同動作を執る關係のみにて相結ばれてゐる多數の獨立小賣企業の結合から成る均一値段營業も次第に發達し行くべき傾向が見える。⁶⁾ 單に、均一値段に依る販賣を行ふといふに止まり、それがただ一箇所の營業所のみにて營まれるものは決して、特別の効果を擧げ得ざるものであると言はれてゐるが、⁷⁾ 此の點からも特に連鎖式營業なることは正確なる意味の所謂、均一値段營業の本質的標識に屬せしめられねばならぬ。

均一値段營業の本質的標識として最後に擧ぐべきものは、其の營業店舗内の設備様式である。即ち、此の種の營業に於ては、其の一營業場の規模も比較的大にして、其の中に於ける多種類の商品は其の種類及び値段について、これを整然たる合理的方法を以て、分類陳列しておくのである。故に、ただ其の値段が少數の確定的段階に分れてゐる點を除外すれば其の營業場は恰も所謂百貨店の小規模なるものの觀を呈する。而して、其の賣上額についても、又其の従業員數についても、單なる専門的營業の連鎖店より遙に大なる規模を有してゐる。これらの點から見て、此の種營業の名稱を均一値段百貨店 (Einheitspreis-Warenhaus) とすることも亦至極適當であるとする論者がある。⁸⁾

以上に説明せる所から明なる如く、均一値段營業の概念的標識はこれを次の如く言ふことが出来る。

6) Mutz, a. a. O. S. 22.

7) Baxter, Chain store Distribution and Management. p. 110.

8) Umbach, a. a. O. S. 25.

均一値段營業とは其の種類に於て無際限に多様な有形的財貨を、相互に連鎖的關係に結ばれたる比較的大規模の多數の營業場にて、整然たる合理的方法を以て陳列し、これを甚だ低額にして且つ極めて少數の段階に分かれた確定値段を以て、最後の需要者に販賣する所の營業である。低額の均一値段を以て、玩具、日用臺所用品其の他の特定種類の商品を所謂 Bazaar, Basare 其他、年市 (Jalmark) 或は單なる祭禮日の神社、寺院等の境内附近にて臨時に販賣することを行ふのはひとり我國に於て早くから見られたのみならず、獨逸等にも存したことであるが、所謂均一値段營業がかかる形態のものとは全く其の範疇を異にするものであることは既に述べた所から容易に了解されるであらう。而して後述する如く、其の發生的起原に於ても、兩者の間に何等かの聯絡を認めることは困難である。

二、均一値段營業の發達

前にも言へる如く、此の形態の營業が始めて發生したのは米國に於てであつた。而して、其の最初の建設者は F. W. Woolworth である。彼は、始め紐育州のウォータータウン (Watertown) に於ける一小臺所用品店に使用人として従業せるときに、其の店内にて、特別の陳列臺の上に數種の異なる商品をならべ、これに『各品五セント』(Each Article 5 cent)の値段札を立てたものが顧客の特別な注意を惹くのを目撃した。これに着眼せる Woolworth は其の後、自ら獨立し、舊

主の金融的援助を得て一八七九年、始めて紐育州のユーティカ (Utica, N. Y.) に、今日の均一値段營業の萌芽たる一均一店を創設した。然し、それは數週間後に閉店の餘儀なきに陥つたが、此種の營業方法の將來の發達に大なる希望を懸けたる彼は意氣沮喪することなく、間もなく同年ペンシルバニヤ州のランカスター (Lancaster, Pa.) に更に同種の營業を創めたが、これは果して、彼の豫想せる効果を齎らし、ここに後年、世界的に大なる發達を遂げ來れる均一値段營業の眞實の端緒が開かれたのである。聽て相次いで、McCroby (1882), Kresge (1899) 等今日米國に於ける均一値段營業の代表者として其の規模の巨大を誇る諸企業の創設を見るに至つた。所謂、均一値段營業なるものの、生成の起原は凡そかかるものである。¹⁾

かくの如き起原を有する均一値段營業は、先づ第一に其の祖國米國にて大なる發達の狀を示し最近には其の形態が歐洲諸國にも傳播して行き、ここでも亦驚くべき速度を以て膨脹した。始めに、米國に於ける其の發達狀況を概觀しやうと思ふ。

右に述ぶるが如く、一八七九年に Woolworth によつて、始めて其の起原を拓かれた均一値段營業は、其の後相次いで、同種競争企業の創設を見ただけでも、大體に於いて、大戰前迄は比較的緩漫の歩調を以て發達し來れるにすぎなかつた。而して、販賣量其の他の點に於て、均一値段營業が米國の國民經濟に有する意義もさして大なるものではなかつた。²⁾ 然るに、戦時中より戦後にかけて、此の種の營業は米國に於て、眞に驚くべき膨脹力を現はし、引續き今日迄其の膨脹

1) Baxter, *ibid.*, pp. 110-111.
Mutz, *a. a. O. S.* 32.

2) Baxter, *ibid.*, p. 111.

状態を持續し來りて、遂に一九三〇年度に於ける、全米國均一値段營業の總販賣額は凡そ十六億弗に達すると推定される有様である。³⁾ 故に、これを、米國に於ける一九二八年内の推定總小賣額四百十億弗⁴⁾に對比すれば、其の約三・八%に當る。又同年に於ける全米百貨店の總販賣額は六十五億弗と推定されてゐるから、⁵⁾均一値段營業は最近に於て、米國の小賣配給組織上に、百貨店に對して約1/4強の意義を有してゐると見ることが出来る。均一値段營業なる配給形態が現に米國の小賣配給組織上に占め來れる意義の輕からざることとはこれによつて太凡察知し得ると思ふ。而して、均一値段營業が始めて米國に發生して以來、前述の如き現狀に到達する迄の發達道程に於て、終始其の發達の負擔者として代表的地位を占め來れるものは Woolworth 會社である。

故に、しばらく、同企業の發達に於ける連鎖組織内の分店數及び總販賣額の膨脹状態を叙して均一値段營業が米國に於て示せる發達の總貌を窺ふ爲に資益せしめたいと思ふ。

先にも言へる如く、Woolworth 企業は一八七九年 Lancaster (Pa.) に設立されたる均一値段販賣店の設立を以て、其の輝ける成功の第一歩を踏み出したものである。其の後次第に業績顯著に現はれて、此の種の營業の前途極めて多望なる事が明かなるに及び、獨り他に同業企業の新に設立せられるものあるのみならず、Woolworth 企業の社員として資本及び勞力を共同にし來れる親族及び其の他、使用人が續々分離獨立して同種の營業を營む所の新規企業の設立を企つる事になつた。ここにしばらく Woolworth 企業の分裂時代が現はれた。しかし、懸て間もなく、其の分

3) Mutz, a. a. O. S. 35-36.

4) Annalen der Betriebswirtschafts und Arbeitsforschung, IV Band, Heft. 1, S. 105.

Ehrlicher, Das Massenfiliäsystem, S. 12.

5) Annalen d. B. W. ibid.

裂せる各箇の企業は、力を協はせて金融組織を擴大し、一層商品種類を増加して合理的運營を行ふに要する資金力の強大化の爲めに、相合して統一的大企業を結成するの得策なることを認め⁶⁾ 遂に、一九一一年五月 F. W. Woolworth 企業を中心として其の系統の數箇同種企業が Woolworth Co. の名の下に集つて、大同團結の一大均一値段販賣企業を形成した。團結合同せる企業は次のものである。

F. W. Woolworth Co. (分店數318) S. H. Knox & Co. (" 112) F. M. Kirby & Co.
 (" 96) E. P. Charlton & Co. (" 53) C. S. Woolworth (" 15) W. H. Moore
 (" 2)

此の一大合同によつて、一躍茲に、全米に亙りて分店數五百九十六を有し、年販賣總額六千萬弗に達する巨大均一値段販賣企業が成立した⁷⁾。これが現今歐、米に跨りて、均一値段企業界に嶄然たる王座を占め、其の總分店數は二千三百五十に近く^{註)}、米國內だけにても、販賣年額三億弗を超える Woolworth 系均一値段營業の直接の發端である。

右の如き合同ありて以後、其の翌年より、米國 Woolworth 均一値段販賣企業の發達道程に現はれた分店數の膨脹狀態は第一表の如くである。

而して今、一九一二年の分店數を一〇〇として、其の後各年に於ける分店數の指數を求むれば、第二表を得ることが出来る。

6) Mutz, a. a. O. S. 33.
 Umbach, a. a. O. S. 27.

7) Mutz, a. a. O.

(第一表)

年度	分店数
1912	631
1913	684
1914	737
1915	805
1916	920
1917	1000
1918	1039
1919	1081
1920	1111
1921	1137
1922	1176
1923	1260
1924	1350
1925	1423
1926	1480
1927	1581
1928	1725
1929	1825

(註)

米國內一八八一分店
加奈太、英國、
玖馬内三七五店
佛蘭西内二店
獨逸内六十五店
(Hand. ch. des Einzelhandels, S. 144)

(第二表)

年度	分店数
1912	100
1913	108
1914	116
1915	125
1916	129
1917	158
1918	163
1919	171
1920	174
1921	180
1922	186
1923	199
1924	213
1925	225
1926	234
1927	250
1928	273
1929	289

而して、これらの多數なる分店にて販賣せられる年總額は第二表の如き膨脹状態を示してゐる。

(第三表)

年度	販賣總額	年度	販賣總額
1912	60518	1922	167319
1913	66228	1923	193447
1914	69620	1924	215501
1915	75996	1925	239033
1916	87089	1926	253645
1917	98103	1927	272754
1918	107119	1928	287319
1919	119496	1929	303047
1920	140919	1930	309284
1921	147655	1931	約310000

今、第三表に

基き、一九一九年を基準として販賣年總額の指數を求むれば、第四表の如くである。^(註)

(第四表)

年度	指數	年度	指數
1912	50	1922	140
1913	55	1923	161
1914	58	1924	180
1915	63	1925	200
1916	72	1926	212
1917	82	1927	228
1918	89	1928	240
1919	100	1929	253
1920	117	1930	258
1921	123	1931	259

(註)

一九一九年を基準として計算せるは、後出、全米均一値段營業の總販賣額の發展に關するMutzの計算と對照せしめる爲である。

以上の叙述に依り、現在、販賣年總額が三億弗を越ゆるに至つてゐる米國 Woolworth 企業の發達状態の一斑を窺ふことが出来ると思ふ。而して、實に Woolworth 企業の發達は米國に於ける均

均一値段營業に就て

第三十六卷 五三五 第三號 九三

8) Baxter, *ibid.*, pp. 113-114.
Mutz, a. a. O. S. 37.
9) Mutz, a. a. O. 33.

一値段營業の發達全體の根幹をなすのである。しかし、勿論、同國には Woolworth 企業の外になほ多數の均一値段營業の組織がある。其の企業數は一九二七年の終末に於て、七八六に達し、其の中に包括されてゐる分店總數は八一〇〇に及んでゐる。¹⁰⁾ 右の如き多數の米國均一値段營業組織の中、分店總數三二二四を包括する主要組織一四に就いて聯邦準備局が得たる調査の結果によれば一九二八年度の販賣年總額は約六億七百萬弗である。¹¹⁾

而して、米國全體の均一値段營業に於ける販賣總額の一九一九年後の累年發展狀態の指數表示を Muz 的计算によつて示せば第五表の如くである。

(第五表)

年度	指數
1919	100
1920	120.8
1921	124.5
1922	139.6
1923	166.0
1924	186.8
1925	213.2
1926	235.8
1927	260.4
1928	283.0
1929	309.4
1930	299.9

今、右の全米均一値段營業に於ける總販賣額の發展を示す指數を Woolworth 企業に於けるそれと對照すれば、一九二〇年以後殆ど各年に於て、基準年に對する膨脹率は前者の場合の方が後者の場合より大である。これは、數百の均一値段企業の中で、たゞ獨り Woolworth 企業が五セント及び十セントの二重値段階級を、今日迄堅く維持して來た方法が、¹²⁾ 其の確定値段階級を一弗にも及ぶものがある程に廣く押し擴げた他の競争均一値段企業に對して廣大なる活動領域を與へた事に基く所が大であると思惟される。¹³⁾

10) Ehrlicher, a. a. O. S. 13, 167.

11) Annalen d. B. W. a. a. O. S. 104.

12) Umbach, a. a. O. S. 26.

13) Baxter, ibid., p. 115.

以上の如く、累年米國の小賣配給組織上に、愈々重要な意義を占めて來た均一値段營業は、其の企業的収益力も一般に甚だ強大である。一例として、一〇箇の有力な米國均一値段企業の一九二九年に於ける収益力を示せば第六表の如くである。

(第六表)

企業名稱	販賣額(單位百萬弗)	分店數	一分店當販賣額(單位千弗)	純益(百分率) (販賣額の)	配當(百分率) (販賣額の)	純益(百分率) (株式資本の)	配當(百分率) (株式資本の)
F. W. Woolworth	303	1827	167	11.77	7.72	36.58	24.00
S. S. Kresge	156	597	262	9.56	5.64	26.15	15.43
S. H. Kress	68	200	342	8.52	1.42	40.01	6.69
McCrorry	45	243	184	6.65	2.05	16.19	4.73
F. & W. Grand Silver	30	139	218	5.96	0.88	26.69	3.95
J. J. Newberry	23	279	99	5.74	1.52	15.62	4.13
McLellan	24	260	91	4.21	0.23	16.61	0.92
Metropolitan	18	151	120	5.13	—	12.35	—
C. G. Murphy	16	153	103	5.70	0.95	22.03	3.68
Neissner Bros	15	58	260	6.80	1.09	18.47	2.95

14)

米國に於ける均一値段企業中の主要なるものが其の企業資格に於て如何に卓越せるものであるかは、上の表によつてもこれを推察することが出来る。

就中 Woolworth, Kresge, Kress, McCrorry の四は所謂、四大會社(Big Four)にして、其の株式は紐育株式取引所の上場品と成つてゐる。此の四大會社に限らず、均一値段會社の株式は以前は多く、單に近親者間に於てのみ維持されてゐたのであるが、現今では、其中約十二の主要會社の株式は廣く公開市場に提供されて、株式取引所若くは

均一値段營業に就て

14) F. f. H. Mitteilungen. a. a. O. S. 13.

其の他の場外取引上の人氣株となつてゐる。¹⁵⁾

米國に於て上記の如き發達を遂げた、此の均一値段營業の販賣形態は最近には又歐洲各國に移植された。それが獨逸に傳來したのは所謂、通貨安定後のことであるが、其の後の極めて短き期間に甚だ迅速なる發達が遂げられた。もとより玩具、靴等の如き類の商品について既に早く戦前から存してゐた單純な均一値段専門店は、最初に言へる様に、ここに問題にしてゐる均一値段營業ではないから、此の場合に併せ考ふべき限りでない。

獨逸に於ける均一値段營業の組織は一九三一年末に略十五と推定されてゐるが、此の他には本來の百貨店が同一企業の内部に於て附帶事業として均一値段販賣を營んでゐるものもある。獨立の均一値段營業組織の中に所謂四大會社として擧げられる所の、四つの巨大組織がある。

Epa Berlin, Ehpe A. G., Köln/Rh.,

Woolworth G. m. b. H., Berlin, Wohlwert-Handels-Gesellschaft m. b. H., Leipzig.

がそれである。此の中 Ehpe會社が最も早く、一九二五年に設立された。これは獨逸に於ける巨大百貨店 Tiez會社の手に成るもので、其の株式は一九二九年に於ける倍額増資の結果六百萬馬克に達してゐるが全部 Tiezの手に支配されてゐる。

Epa會社も亦、巨大百貨店コンツェルンKarstadtの手によつて一九二六年六月に設立された會社である。これは、獨逸に於ける總ての均一値段企業の中で最高の年販賣額を擧げてゐる。前記

15) Baxter, *ibid.*, p. 111, p. 115.

の Elape は Woolworth の例に倣つて其の値段階級を始め二十五ペニツヒ、五十ペニツヒの二段に限定して來たが、Epa は最初から一馬克の範圍迄其の確定値段階級を擴張した。これが Epa の發達に特別の好影響を與へたと考へられてゐる。Woolworth 會社は米國 Woolworth 會社のの子會社として一九二六年に設立されたもので、其の資本の大部分は親會社の手に掌握されてゐる。

以上の三大均一値段營業組織はいづれも、單一企業の中に其の營業が全部統一的に包括されてゐるのであるが、Wohlwert-Handelsgesellschaft はこれと稍趣を異にする。即ち、それは一箇或は數箇の均一値段營業所を所有する多數の中小企業主が共同仕入の目的を以て組織せる仕入機關であつて、此の機關組織への加盟によつて、箇々の營業所は Wohlwert 組織内の分店的性質を與へられることになる。獨逸にはなほ、此の他にも同様に中小の企業主が仕入、金融或は宣傳等の便宜の爲めに、相聯結して構成した均一値段營業の組織が數箇あるが、これが其の中の代表的なものである。始めて一九二五年に設立されて、ハンブルグに其の本部を置く。

抑々、通貨安定後に於ける米國均一値段營業形態の獨逸への移入は、何事にまれ商工業の運營方式を米國のそれに倣ふに急であつた當時の獨逸流行現象の一であるが、他方には、兩國國民性の相違を云爲して、此の形態の營業の將來に於ける成否に對して強き疑を懐くものもあつた。然るに、其の最初の傳來後、極めて短き期間に成就し得た其の目覺ましき發達の結果は、著しく右の懷疑説を裏ぎつた。假りに前述の四大組織のみについて見ても其の販賣總額は一九三〇年度に

於て二億二千六百五十九萬馬克であるが、これを其の一九二七年度の總額三千八百四十七萬馬克に比すれば、五・九倍に當る。¹⁶⁾

尤も、獨逸均一値段營業の總販賣額が全獨逸小賣販賣額の中に占める割前は未だ甚だ多しとは言へない。即ち今、前記四大會社の規模を基準として、其の年販賣總額から推測して假に、獨逸均一値段營業の一九三〇年度に於ける販賣總額を三億馬克と定めれば、それは全獨逸の小賣販賣額の一九三〇年度に於ける總推計三百二十億馬克¹⁷⁾に對して辛うじて一%に當るに過ぎない。然れども、これを一九三〇年度に於ける全獨逸百貨店の小賣總額推計十四億馬克¹⁸⁾に比すれば既に其の二十二%に當る。故に、獨逸に於ける均一値段營業の發達狀勢が極めて顯著なものであることを知ることが出来る。

第七表、及び第八表に於て獨逸の四大均一値段營業組織に於ける販賣額及び分店數の年次發展狀態を表記し以て、全體の發達狀態を窺ふ爲の便とする。

以上、専ら獨逸に於ける均一値段營業の發達について述べて來たが、歐洲に於ける均一値段營業の移植は獨り獨逸のみに止るものでないことはいふまでもない。しかし、此の場合に於て、英國市場に於ける米國の Woolworth 系資本の進出と、瑞西、佛蘭西、瑞典の市場に於ける獨逸 Karstadt 系資本の活動¹⁹⁾とは特に指摘せらるべきものである。Woolworth は既に英國市場に於て約三百の分店を所有してゐる。²⁰⁾

16) Vgl. F. f. H. Mitteilungen, a. a. O. S. 9.

17) F. f. H. Mitteilungen, 1. Jahrg., Nr. 1. S. 14.

18) F. f. H. Mitteilungen, a. a. O. S.

19) Mutz, a. a. O. S. 45.

20) Umbach, a. a. O. S. 28.

均一値段營業に就て

年 度	販 賣 額									
	單 位 百 萬 馬 兌					1927年度に對する倍數				
	Ehape	Epa	Wool worth	Wohl wert	總 計	Ehape	Epa	Wool worth	Wohl wert	總計
1926	3,80	—	—	—	3,80	—	—	—	—	—
1927	17,94	12,13	4,40	4,00	38,47	1,0	1,0	1,0	1,0	1,0
1928	32,94	42,25	16,45	9,00	100,64	1,8	3,5	3,7	2,3	2,6
1929	46,67	74,74	28,52	9,00	158,93	2,6	6,2	6,5	2,3	4,1
1930	62,00	98,69	40,90	25,00	226,59	3,5	8,1	9,3	6,3	5,9

(第七表)

21)

年 度	分 店 數									
						1927年度に對する倍數				
	Ehape	Epa	Wool worth	Wohl wert	總 計	Ehape	Epa	Wool worth	Wohl wert	總計
1926	11	—	—	—	11	—	—	—	—	—
1927	39	7	9	10	65	1,0	1,0	1,0	1,0	1,0
1928	60	17	24	18	119	1,5	2,4	2,7	1,8	1,8
1929	68	20	47	18	153	1,7	2,9	5,2	1,8	2,4
1930	71	50	65	51	237	1,8	7,1	7,2	5,1	3,6

(第八表)

21)

均一値段營業は先づ米國に於て、次いで歐洲の諸國に於て、前述の如き大勢を以て目覺ましき發達、普及を遂げて來た。而して、此の發達過程に於て示された、特に顯著なる特徴は單に、其の迅速なる發達の速度のみではない。更に又、均一値段營業は既に米國及び獨逸に於て現はれた限りでは、専門的小賣營業、通信販賣營業乃至は普通の小規模小賣營業形態に比較して、其の販賣額の

第三十六卷

五四一

第三號

九九

21) Mutz, a. a. O. S. 124-125.

上に受ける景氣變動の影響が甚だ少いのである。

米國に於ける百貨店、通信販賣、均一値段營業の三種の小賣販賣形態の販賣額について、一九一九年の後半期より一九三一年の前半期迄の間の移動十二箇月平均を算出して販賣額に對する季節的影響を除去し、其の結果を圖示せるもの²²⁾について見るに、凡そ次の如く言ふことが出来る。即ち、右の三種の營業形態の中にありては、通信販賣の營業形態が最も強く、一九二〇年の下半年より一九二二年の上半に至る米國經濟不況の影響を、其の販賣額の上に現はしてゐる。而して、一九三〇年來の經濟恐慌は又迅速に其の販賣額の上に反影してゐる。百貨店の販賣額は右の一九二一年を中心とする米國の不況に對して可なりに強き抵抗力を示してゐるが、併しなほ其の販賣額萎縮の影響は明にこれを看取することが出来る。均一値段營業に至つては、其の販賣額の伸張速度の低減の上に、稍々當時の經濟不況の影響を窺はしめるものがあるが、しかも販賣額の絶對的減少は現はれるに至つてゐない。勿論、一般には百貨店營業は景氣の變動に對して比較的強靱なる抵抗力を有することは人の知る如くであるが、均一値段營業はこれにも増して景氣變動に對する感度が鈍い。しかし、一九二九年末後の世界經濟恐慌は、はやくも一九三〇年の米國均一値段營業の總販賣額の上に若干、其の影響を現はしてゐる。固より、其の程度は通信販賣に於けるものより、遙に低い。

均一値段營業が經濟不況に對して、比較的強靱なる抵抗力を有することは、獨逸の均一段値營

22) Mutz, a. a. O. S. 134.

業の發達過程についても言ひ得られる。既に述べた様に、獨逸の均一値段營業は一九二五より一九二六年の下半期に懸けて創設されたものである。此の時期は恰も獨逸の通貨安定後の不況時に屬してゐて、此の事は一九二五年より一九二六年の終末頃迄、顯著に其の標識を、當時の失業者數及び破産並に和議手續の件數統計の上に示してゐる。²³⁾均一値段營業の形態が正にかかる時期に於て新しく傳來し、而も當初から、其の將來に對する強き發展的彈力を潜在せしめてゐたといふことは注意しなければならぬ。

一九二五より一九二六年に互る獨逸の不況は一九二七年に入りて回復の狀を現はし、一九二七年の後半より一九二八年に懸けては所謂獨逸の合理化景氣を謳はれた時期であつた。しかも既に其の末期には、漸く來るべき大恐慌の萌芽が現はれ來り、最初には緩慢の步調であつた不況の進行は次第に其の速度を速め、一九二九年より一九三〇年にかけて愈々不況は深刻となり、一九三一年に入りてはまことに空前の大恐慌現象を呈し、年末には遂に五百萬に達する失業者が現はれることになつた。一九三〇年と一九二九年とを比較すれば、前者に於ては工業的生産のみにも後者に於けるより、百五十億馬克減少してゐる。國民所得は一九二九年には七百六十億馬克と推定されるのに一九三〇年には六百八十億乃至は七百億、一九三一年には五百億乃至六百億と推定されてゐる。²⁴⁾小賣營業が全體として、其の販賣額の上に強く此の恐慌時の影響を蒙れることは當然であつた。即ち、一九三〇年前半期の全獨逸小賣販賣額は前年同期のそれに對して八%、一九

23) Schriftenreihe der F. f. H. Nr. 6, S. 22.

24) Vierteljahrshefte i. f. K., 5. Jahrg. (1931) Heft 4 Teil A, S. 68 und 6. Jahrg. Heft. 3.

三一年前半期のそれは一九三〇年前半期のそれに對して一二・四%、一九二九年前半期のそれに對して二四%と夫れ々減少してゐると推定される。²⁵⁾然るにこれに對して獨逸の均一値段企業は、全般的に及び箇別的に累年販賣額を増加して來たのである。これは新規分店の増設のみに基くものでないことはEhape會社について、一九三一年度の各月販賣額を夫々、前年度の同期と對照して計算せる結果から知り得るのである。²⁶⁾尤も、一九三一年の十月以降に至つてはEhape會社の舊分店のみについて見ても、漸く前年の同期に對して輕微ながら販賣額の減少が現はれて來てゐる事實を無視することは出來ぬ。目下の世界恐慌に際して、均一値段營業が其の販賣額の上に如何なる抵抗力を示すかは、なほ其の後に於ける實勢をも明かにし得て、始めて正確に判斷し得るのではなからうか。

ともかくも、過去に關する限り、均一値段營業は、米、獨に於て共に、これを他の小賣營業形態に比較すれば、優れて強靱なる景氣抵抗力を示して來たものである。

社會經濟の構造的變動に基くのではなく、單に氣候の循環や、年中行事の反復等に因つて起る所の、需要の季節的變動は均一値段營業に對しても亦、他の形態の小賣營業に對してと同様に、かなり鋭敏に作用して、顯著に販賣額の季節的變動を惹起するが、ここでは是に論及しない。

三、其の發達の基礎的條件

25) Schriftenreihe der F. f. H. Nr. 9.
F. f. H. Mitteilungen 11 Jahrg., Nr. 2, 6/7.

26) Mutz, a. a. O. S. 100.

均一値段營業も亦一種の企業である。然るに、私見によれば、一般に企業の盛衰、興亡は次の如き二元的原因の有機的、結合的作用の結果として起る。所謂、二元的原因の一は企業の在內的機構の如何であり、其の二は夫々の企業が存在してゐる社會的環境上の事情の如何である。均一値段營業の發達も亦、これら二つの原因の結合的作用によつて規定されたものであること勿論である。故に、均一値段營業の發達に對する基礎的條件を明かにするといふについては、右の二つの事情を、而も其の有機的牽聯の關係に於て觀察すべきものであるが、ここでは、姑く、在內的機構の問題を措いて、先づ専ら其の社會的環境上の條件について考察しやうと思ふ。

米國及び獨逸に於ける均一値段營業の目覺ましき發達を惹起せる基礎的諸條件の中にて、結局これを其の社會的環境の性質に還元せしめ得べきものは考察の便宜上、分類して次の如くすることが出来る。

(一)需要者側に附着する事情、(二)生産者側に附着する事情、(三)競争力の側に附着する事情、(四)經濟政策的事情

(一)需要者側に附着する事情。分つて更に、(イ)經濟心理的事情、(ロ)純經濟的事情となす。(イ)米國は所謂近代合理主義の時代に誕生し、國として殆んど何等の非合理的傳統の殘渣を伴はざるのみならず、なほ其の人口生成の由來に於ける特殊の事情に基きて、其の民衆一般の間には最も強く經濟的合理主義の心理が發達してゐる。即ち、物的財貨について、費す所少く、得る所多からん

爲めには、情實、因襲、習慣等に拘泥せず、¹⁾輕快、率直に新規の道に移つて行く。均一店が或る都會に新設されて、直ちに多數の顧客を吸引するには、獨り均一店の販賣する處が實質的に有利なるのみに止らず、民衆心理の中に於ける經濟的合理主義の發達を俟つや明かである。この經濟的合理主義と共に、相俟つて、均一値段營業の發達に資せる米國特有の心理は民衆的平等主義、反貴族的獨尊主義である。民衆各人が獨自的なる特殊の趣味を經濟的享樂の上に追求することなく、各地、萬人整一の趣味要求を以て満足することが、均一値段營業の如く、全國各地に設けたる多數の分店を以て大量に整一品を供給する營業の發達の爲に重要な條件たるは言ふまでもない。米國民衆の經濟的心理は適格に此の要求を充たすのである。²⁾必しも、眞實の高き藝術的價値や、或は持續的使用に堪ふべき堅實性を有する財貨のみに憧憬せず、單に安價にして便利なる物や又、廉價なる間に合はせ物なれど其の端的なる表見が高價なる奢侈品に類似せる物等の如きを得て満足する、所謂低級趣味の心理が、相當の程度に廣く社會に瀰漫せることも亦、専ら安價品を供給する均一値段店の發達の條件をなす。右の如き經濟心理は從來歐洲殊に獨逸に於ては寧ろ民衆心理の正反對をなすものであつた。³⁾けれども、戦後、殊に通貨安定後は國民經濟的事情の變化、従つて又各方面に於ける合理化運動の助成、大衆の無産化、女子勤勞者の増大等によつて、可なりに強く、右の如き米國式の經濟心理が獨逸にも亦普及して來たのである。⁴⁾

(ロ) 需要者の側に存する純經濟的事情の主なるものは勤勞所得階級殊に又女子勤勞者が人口成分

1) Vgl. Sombart, Der moderne Kapitalismus, I. 2. S. 545.
2) Ehrlicher, a. a. O. S. 28. Umbach, a. a. O. S. 42.
3) Umbach, a. a. O. S. 128.
4) Mutz, a. a. O. S. 26.

に大なる割合を占め、且つ其の實質勞賃が増大することであり、第二には、人口の都市集中化である。前者は社會全體に於ける消費財の需要増大乃至は奢侈の一般化を惹起して均一値段營業の販賣額増加の原因となり、後者は需要の集中によつて、定着的營業所の増設條件を成す。孰れも、これを米國及び獨逸に於て認めることが出来る。⁵⁾

(二)生産者側に附着する事情。私見によれば、商業的企業の營業形態と工業的企業の營業形態との間の制約關係は、其の作用方向をば孰れにか一方的に認めることは妥當でない。均一値段營業の米國及び獨逸に於ける發達についても、固より此の事が言へるのである。しかし、今姑らく、工業的企業の側のみを基本として考察すれば、これに於ける同型品の大量生産と新奇安物の生産技術の發達とが均一値段營業の爲めに其の發達の基礎的條件となれるや明かである。前者の事情は民衆趣味の齊一化を利用せるものであるが、又自ら後者の事情の實現を助けたのである。此の際米國、次いで又獨逸に於ける各種消費財の標準化の運動が大なる助成作用をなせることを看過してはならぬ。⁶⁾従來は高價な奢侈品として、單に少數需要者のみが享樂し得たりしものが、今や其の低廉化乃至は模造化によつて廣く大衆の享樂對象となり得たのである。加之、同型品の大量生産は均一値段營業をして、廣く、均一値段による大量供給を可能ならしめた。

(三)競争力の側に於ける事情。市場に於て、特に均一値段營業の爲に競争力を成すものは消費組合と百貨店とである。低廉なる價格を以て無産大衆の生活上の欲望を満足せしむることは消費組

5) Ehrliche, a. a. O. S. 25 ff.
Mutz, a. a. O. S. 27.
6) Umbach, a. a. O. S. 41.
Mutz, a. a. O. S. 23.

合の本質的任務である。消費組合の發達は歐洲と米國との間に於て格段の相違を有することは周知の如くである。しかし、獨逸に於ても政治的事情から消費組合に加入せざる民衆も少くなく、且つ消費組合が均一値段營業の取扱ふが如き多種類なる商品を提供するものでもない。百貨店は其の内部組織に於て、又其の商品の多様性に於て一應、均一値段營業の敵手であるが、實は其の取扱商品が今日では、既に稍高級化に偏せると其の所在位地の一方化との爲に、大なる競争力を成せるものではない。寧ろ其の營業形態殊に正札制及び其の特有の店内整備様式が購買大衆の耳目に習熟せることは均一値段營業の地方的進出の爲に市場地盤開拓の準備作用を成すのである。⁷⁾

(四) 經濟政策に於ける事情。均一値段營業は多數の連鎖的營業所に於ける科學的營業方法を以て新らしく、小賣配給界に自己の領域を擴大せんことを努める新企業である。換言すれば、均一値段營業は大資本の力に基く合理的營業方法によつて、小賣業界に於ける傳統的勢力克服の作用を成す。故に若し、其の國の經濟政策が中世組合主義的、乃至は中小商人の保護を目的とする社會政策的のものであるなら、これによつて均一値段營業の發達が阻害されるは明かである。自由主義的、資本主義的經濟政策の徹底は均一値段營業の發達の爲に不可缺の條件である。⁹⁾ 米國でも嘗て、此の種の營業に對して、從來の單獨小賣商が反對的制限運動を起したが成功するに至らなかつた。¹⁰⁾ 獨逸では最近迄は、均一値段營業に對して特別の拘束を加へなかつたが、昨年三月の大統領緊急令¹¹⁾はこれに向つて、一九三四年四月一日迄、人口一〇萬以下の都會には均一店の開設を許さざる

7) Umbach, a. a. O. S.

8) Mutz, a. a. O. S. 29.

9) Ehrlicher, a. a. O. S. 23.

10) Umbach, a. a. O. S. 122.

11) Notverordnung 19, 3. 1932. Teil. III.

Vgl. Handbuch des Einzelhandels. S. 752.

等其の他種なる制限を設けたのである。

最後に於て、均一値段營業が景氣の變動に對して、比較的強靱なる抵抗力を示す原因について一言しやうと思ふ。先づ、均一値段營業は其の店舗が各所、各地方に散在し、且つ其の扱ひ商品も極めて多種、多様に分れて居るから、自ら販賣上に調整作用の行はれることが其の主因の一である。次に不況時には、其の所得の減少の爲に從來からの比較的優等程度的生活階級が新たに、其の顧客群に加はり來るのみならず、一般に、廉價、低級なれども兎も角當面の用を辨じ得るが如き品質程度の商品が其の需要を増加することが又原因の一を成す。¹²⁾景氣回復して、一般に所得の増加が起るときには均一値段營業は其の顧客階級の中から比較的生活程度の高き一部を失ふことになるけれども同時に、依然として其の顧客群に止まるものの需要増加がこれを補ふことになるといふことも亦、併せて、ここに考へる必要がある。

均一値段營業は、最近に於て我國にも亦、其の端緒を見るに至つた。従つて、以上に論ずる所の如きこれが發達の基礎的諸條件を我國のそれについて考察して、其の將來の發展状態を展望すると共に、又これに伴つて起るべき經濟政策的諸問題を検討することも意味深き仕事であらう。